

パレスチナ難民が語る村落史から見た「故郷」 —破壊されたリフター村出身者の事例より



報告者：金城美幸氏(立命館大学)

コメンテーター：佐藤麻理絵氏(京都大学)

飯嶋秀治氏(九州大学)

◆登壇者紹介◆

金城美幸氏：立命館大学非常勤講師・生存学研究センター客員研究員。イスラエル建国とパレスチナ人の難民化とをめぐり歴史と記憶を研究テーマとする。近年の著作に、「歴史認識の同時性を検討するために」(2018年、『現代思想』46巻8号)、「委任統治下パレスチナにおける『民族対立』創出の背景」(2018年、『ユダヤ・イスラエル研究』32巻)、「『虐殺』の物語の奥行き：シャリーフ・カナアアナ、ニハード・ザイターウィー著『デイル・ヤーシーン』の解題と翻訳」(2017年、東洋文化研究所紀要171巻)など。

佐藤麻理絵氏：京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科助教。専門は中東地域研究、国際政治学、難民研究。近年の著作に、『現代中東の難民とその生存基盤—難民ホスト国ヨルダンの都市・イスラーム・NGO』(2018年、ナカニシヤ出版)、「難民ホスト国ヨルダンにおける国内アクターの展開」(2018年、『アジア・アフリカ研究』18巻1号)、「Islamic charity and royal NGOs in Jordan」(*Asia-Japan Research Academic Bulletin*, 2019)など。

飯嶋秀治氏：九州大学大学院人間環境学研究院共生社会学講座准教授。専門は共生社会システム論(人が危機とどうつきあうのかの研究)。近年の著作に、『自前の思想：時代と社会に応答するフィールドワーク』(2020年、京都大学出版会、清水展氏との共編著)、「人類学の安全教授と大学のガイドラインの間で」(2019年、古今書院、澤柿ほか編『経験から学ぶ安全対策』)、「Crossingする花卉—エスノグラフィとReconciliations」(2019年、『Quadrante』No.21)など。

オンライン開催(Zoom会議システム利用)・参加無料

事前に下記よりお申し込みください

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfEz0GO27zly7V6cmUtxD_1sPkqi5V9DgMzJrVuDES_agDGGQ/viewform?vc=0&c=0&w=1&flr=0&gxids=7757

問い合わせ先：sugie.ai@b.mbox.nagoya-u.ac.jp

主催：名古屋大学高等研究院YLC共同研究採択課題「移動と共生—移民・難民をめぐりグローバル・スタディーズ」